

西濃事務研究会報

平成 27 年 7 月 27 日

平成 27 年 5 月 26 日、西濃総合庁舎にて研修会を行いました。

◇研修会

1. 講話「課題解決のための視点 ～現状・今後・期待～」

西濃教育事務所 所長 福地 淳宏 様

課題解決のための視点で、学校におけるさまざまな課題について話をしたい。明治時代の高山樗牛という思想家の「己の立てるところを深く掘れ、そこには必ず泉あらん」という言葉がある。こつこつと仕事に取組み、気がついたら“あなたがやってくれたことで学校の環境がよくなったよな。”ということがある。だから、大きな学校や小さな学校、職員の数が多い学校や少ない学校などいろいろあるが、今そこにあなたのいる理由がある。



(1) 西濃管内の実態

- ・西濃地区には、特色ある文化や伝統があると思う。西濃地区は、大垣市を大きな市として一つ持ちながら、2市4郡9町が集まっている。市町の規模がそれほど大きくなく、教育委員会と知事部局が非常に良好な関係ではないかと思う。例えば、揖斐川町の立志式ではすごく感動した。子どもたちと町長さんが一緒になって話し合う場面があった。揖斐川町の中学3年生全員が町の一世代を担っていくわけである。子どもたちは町の財産であると感じた。
- ・学校職員の年齢構成は、50代後半が一山多くて、30代後半から40代前半が極端に少なく、20代以降は増えている。この山が多少崩れながら、引き継がれていく。欠員を減らすためには、今年度のように新規採用者を増やさなければならない。初任者の育成が学校の活性に大きく影響を及ぼす時代である。昨年度末、20人の校長先生が退職され、今年度末も20人が退職される。2年で40人の校長先生が定年退職を迎えることとなる。その分、管理職の若返りとなり次の世代をどんどん育成していくという実態となる。これは、管内として大きな課題であると思っている。
- ・昨年度、県内ではたくさんの不祥事があった。部活動費の横領、ストーカー、まちぶせ、個人情報流失、傷害事件、公然わいせつ、危険ドラッグによる薬物法違反など、非常にセンセーショナルな事案が発生した。現役教員が逮捕されるというショッキングな事案もあった。今年は「不祥事なし」を強く願っている。

(2) 子どもを取り巻く状況

- ・いじめの認知件数は減ってきている。不登校は小学校、中学校ともに増え続けている。年間30日以上欠席を不登校と言っているが、全国で12万人ぐらいいる。1か月で7日以上欠席は、小6から中1になるとかなり増える。中3の不登校生徒の過去を見ると、小6から中1にかけて不登校になったとされている。小学校4年生までに不登校の兆候を出しているのだから、不登校の問題は中学校になってからの問題ではなく、小学校の問題ともよく言われている。
- ・中学校ではネット絡みのいじめなどの問題が多くなっている。県内でいろいろな取組をしているが、大垣市では「いじめ0スクール」（子どもたちが主体的になってネットを使う約束ごと）を決めている。養老町では、「子どもの5か条」「保護者の5か条」があり、子どもにネット環境をもたせる上での約束ごとを決めて取り組んでいる。小学校では、粗暴行為などの低年齢化が進んでいる。
- ・今年度も、アナフィラキシー対応があり、養護教諭が素早い処置をした後、救急車を呼んで助かった。エピペンを持っている子どもはたくさんいる。各学校で、該当

の子どもがいるか確認し、密に連絡し合っていたきたい。

- 個別の支援を要する子どもの数は増加傾向の様子。障がいのある子どもも、障がいのない子どもも、誰もが分かりやすく、教育活動に取り組めるユニバーサルデザインが求められている。
- 中学校の部活動では、子どもが減り、チームが成立しない問題がある。他の学校と合同で練習し、合同で試合に参加したり休部したりする部活がある。
- 養老町では、数年間ですべての学校をコミュニティスクールにしようと取り組んでいる。国も積極的に進めており、地域住民が学校運営に参画していくスタイルを制度として導入する。
- 外国人児童生徒は、地域によって差はあるが、大垣市や垂井町では、非常勤職員を雇い対応している。
- 次の学習指導要領では、小学校高学年で英語が教科になり、3・4年生から、すべての学校で英語を学ぶことになる予定。
- 揖斐川町の食育や輪之内町の食物アレルギーに対するパソコンを使った取り組み、大垣市の地域ぐるみの人権教育など、各市町でさまざまな取組がなされている。

(3) 子どもを取り巻く状況

- 子どもたちを待ち受ける社会は、知的な豊かさ、精神的な豊かさが求められる社会である。また、少子高齢化とグローバル化、人口減少が予想以上に早く、変化が著しくなっている。
- 年齢構成のグラフを見ると、0～14歳の減り具合に対し、65歳以上の人口が増加し、子どもの総数は減る一方となっている。岐阜県は、子どもの割合が平均より多い。教育についてやりがいのある県、子どもが育っていくのにとってもよい県と言える。
- シャープ本社売却やマクドナルド131店閉鎖などの報道を目にするが、何が起きてもおかしくない時代になった。2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもの65%は、大学卒業時に今は無い職業に就くとされている。
- ネット依存の問題がある。厚生労働省によると、51万8千人がネット依存と言われている。東京の高校生は6割以上がネット依存となっており、新聞には、行き着く先は日常生活の破綻、脳が休まるときに休まらない、バーチャルの世界にのめり込む、目標を失い失望するなど書かれている。昼夜逆転の生活、無表情、現実逃避になっていく危険性がある。病院でも、待合室でゲームばかりしている子どもの光景がよく見られる。大人も、スマホやネットをやっている。
- 激しく変化する社会環境の中、知識を与えるだけでは生きていけない。活用する力、自立した個人の力が求められている。同時に、仲間同士がつながって、助け合う＝絆や協同が大切になる。人間力としての学習形成を、どの子にも出来るように目指す必要がある。

(4) 子どもを取り巻く状況

- 21世紀を生き抜く上で、国際バカロレアなどの教育プログラム、アクティブラーニングなどがある。IB学習者像として、①知識のある人、②振り返りの出来る人（思慮深く自分自身を見つめ直す人・思いやりのある人）、③探求する人（好奇心のある人）、④オープンマインド（自分の文化を理解して他文化を尊重する人）、⑤考える人（批判的かつ創造的に思考する人）、⑥バランスの取れた人、⑦信念のある人、⑧コミュニケーションが出来る人、⑨挑戦する人（危険を冒してでも前に進む人）を併せ持った人がこれから生き抜くと言われている。日本でもこのカリキュラムを導入している学校が10校ほどあり、文部科学省では学習指導要領の改訂に当たり議論している。
- 国は教育行政再生会議を立ち上げ、平成25年以降数多く提言している。教育委員会制度や道徳の教科化、小中一貫教育、大学入試、コミュニティスクールなどである。スピード感ある改革なので、教育を専門家に任せればよいという時代から、選挙で選ばれた代表者も教育に関わり、信頼された教育を行っていく時代になってきている。

(5) 学校への期待

- 東日本大震災で子どもを亡くされた先生が、震災前と震災後で「子どもが命に見える」と言われた。学校は、命を守り輝かせる場所である。ある母親は「学校に行ったら、先生の言うことを聞きなさいと言ってしまった。言わなければ良かった」と言った。学校や先生は命を預かり、絶対的に信頼される大人であると厳しく言われ

ている。それは、校長も教頭も、事務職員も同様である。

- なぜ、不祥事は繰り返されるのか？どれだけ、周りの人を傷つけているのか？ある教員が不祥事を犯すと、そこにいる教員や子どもだけでなく、前任校の子どもにも心の傷となる。学校では、意識しなければいけないことがたくさんある。
- 児童生徒の安全・安心に関することや、教員の指導の問題など、子どもや保護者の信頼を得なければいけない。現場で何が起きているのか、将来子どもたちをどのように導きたいのか。校長だけでなく、すべての教職員に求められている。

(6) 学校事務職員への期待

- 県内では、主幹教諭の充実や再任用制度、スタートアッププラン、教職員のコンプライアンス向上委員会、多忙化解消、教科担任制などに取り組んでいる。
- 事務職員は教壇に立って指導することはないが、特別に採用された教育に精通している行政職。学校に唯一いる行政職員なので、学校の実態に即した創造的な仕事をしてほしい。
- 縁の下の力持ち、学校運営を担う重要なポスト、欠かすことが出来ないポジションである。いびつな年齢構成をプラスにとらえて、是非若手を育ててもらいたい。遠慮なく教員と子どもに声をかけてもらいたい。事務職員の視点でスリム化に切り込んでほしい。危機管理を高める意識を持たせてほしい。事務職員に対する期待は大きい。心に残る事務職員は、叱咤激励する事務職員、子どもにあいさつの指導をする事務職員など、児童生徒を育てる教職員としての自覚を持っていた。
- 実務能力、対応能力は必要だが、人間力が大切だ。いわゆる一人職の孤独感を味わいながら苦勞していると思うが、先生方の志気に影響するポジションなので、皆さんの一声やちょっとした動きで救われている教職員がたくさんいることを知ってほしい。是非若い先生にも声をかけ、電話の対応や給料明細書の見方などを教えてほしい。手当や手続きなど、教員は苦手なことが多い。しかし、ストレスの貯まるポジションでもあるので、事務職員同士連携し合って、一人で抱え込まず、みんなで助け合って適正な事務を行ってほしい。笑顔あふれる事務職員として、職員室を盛り上げて規律のある学校職員集団を築いてほしい。益々の活躍を期待している。

2. 事務指導

西濃教育事務所 学校職員課 学校人事係 伊東 誠 様

行政の仕事をいくつか経験しているが、学校現場での経験、子どもたちや職員の様子を思い浮かべながら普段心がけていることをお話する。



(1) とにかくすぐ取りかかる

数分で完了する仕事が入ってきたら、その場ですぐ終わらせる。短時間でできることが積みあがらないように、すぐにとりかかるようにしている。そうすれば、アクシデントが起きても心に余裕があるので対応できる。メールは届いたらとりあえず中身を見て、その日のうちに少しでも処理している。何もしないで放置しない。そうすると、自分だけで終える仕事なのか、人に頼まなければ終わらない仕事を早い段階で判断することもできる。仕事の内容全体を把握し、段取りをつけるためにも、名前を書くだけでもいいから少し触ってみることが大切となる。

(2) 一手間かける

間違いを分類すると、パッと見てすぐ分かる間違いと、よく見なければ分からない間違いがある。大半は、パッと見てすぐ分かる間違いである。すぐ見つかる間違いを一手間かけて見つけてほしい。点検は面倒だが、間違いがあった時にその何十倍かの労力を要することもあるので、無駄な労力を阻止する意味でも一手間かけることが必要だ。

(3) ハインリッヒの法則

1つの重大事故の背景には、29個の軽微な事故があり、300個の異常が存在するという有名な法則がある。一人で判断したがために、後で大変なことになったことが

あった。結果的に、大きな事故やミスがあった背景には、ノーマークでのミスはありえないので、引っ掛かったことはまず口に出して情報を共有することも必要だ。

私は学校の世界しか知らなかったのも、もっと事務職員からいろいろ教えてもらえば良かったかな…と今になって思う。教員は、世間知らずな面があるので、いろいろ教えてあげてほしい。社会の仕組みや文書事務の意味もぜひ若い人に教えてほしい。

また、学校で重大な事故や事件が起きた場合、記録がとても大事になる。時系列で何時何分に何が起き、誰がどういう対応をしたか、メモをとっていただけるとありがたい。

西濃教育事務所 学校職員課 管理調整係 伊藤 由美子 様

(1) 扶養親族届と同一家族の届について

「扶養親族届」は今後の一年間の収入、「同一家族の届」は前年の総収入を入力する。5月の時点では、前々年の所得証明となるので、同一家族届の年収は源泉徴収票または確定申告書の金額を入力する。

また、退職した場合、健康保険厚生年金資格喪失連絡票は保険資格を失った証明で職を辞めた証明とはならない。

(2) 住居届について

住居届の入力の際、契約書に所有者等記載が無いことがあった。所有者等に確認して入力してほしい。4月分の家賃が無料の場合は、家賃が発生する日の属する月から新規で申請手続きとなる。

(3) 振込口座の変更について

結婚等で改姓し、給与・旅費振込口座の名義変更する場合は、振込不能の恐れがあるため、変更する前に管理調整係に連絡してほしい。

(4) 児童手当、現況確認時の所得について

不動産、株式所得が恒常的にあがってくる場合は、所得額とみなす。手当の対象となる児童が別居している子の場合、聞き取りをして家族の現況が分かるように申立書の作成をしてほしい。

(5) 修学旅行等旅費について

社会見学・修学旅行などの旅費請求は、領収書の日付から1ヶ月以内に提出をお願いしたい。児童生徒分の支払いができない場合は、先に職員分の支払いを済ませて請求してほしい。修正などをお願いしている間に児童生徒の支払いができるかと思う。

旅費の差し替えのメールがあった場合は、再提出は速やかに、1週間位でお願いしたい。駐車場の利用については、時間単位の場合、800円を超えない金額を目安にお願いしたい。シャトルバス代は使用料となり、旅費からの支出はできない。

手当の申請は、事実が発生したら15日以内に届出厳守をお願いしたい。万一提出できない場合は、提出できず遅れた「理由書」を学校長に記してもらい、事務所で検討となる。

3. 研究計画について

研究推進委員長（揖斐川町立北和中学校） 川瀬 弘恵

研究推進委員会では、事務職員に今必要なのは学校で起こりうる様々な危機に対応できる力だと考え、第2次長期研究計画テーマを「学校にある様々な危機に対応できる事務職員を目指そう」とした。25年度は涉外について研修を行い、真のマナーとは、相手に対する思いやりや敬意を言葉や態度で表すことを講話から学んだ。26年度は災害について学び、事務職員に必要な学校防災の演題で、講話を聞いた。災害時、どのような心構えで、どのような物品、職員の動きが必要なのかを、実際にあった岐阜県や東日本大震災の事例を交えて学んだ。

今年度も専門的な知識を持った先生をお招きし、危機管理意識、危機管理能力の向上につながる講演の準備を進めている。事務主任として、学年会計簿等の決裁を行っているが、正確な知識で決裁を行っていると言い切れず、昨年度までの資料に頼っているのが現状だ。明瞭で外部からの監査に耐えうる会計簿を作成することも危機管理の一つだと考え、西濃地区会員の方に学校へお土産として持って帰っていただける内容を考えている。また、講師講演研修と並行して、研究推進委員研究も行っている。



平成 25 年度に SWOT 分析を行い、「著作権」について研究を深めることにした。そこで、25 年度は、著作権についてまとめたプレゼン発表と研推だよりの発行、26 年度は、ひやり事例回答集と研推だよりと一緒に発行した。実際の事例なので、各校での対応に役立つと思う。このような資料から著作権を知っていただくことで、目の前にある資料が使ってよいかどうか分かる。そして不正な情報の使用を止めること、また校外への不正な情報の流出を止めることができる。学校で危機管理を怠り、不祥事が発覚したとき、子どもたちは少なからずショックを受ける。学校が子どもたちに安心して学べる環境を提供するには事務職員の働きが不可欠だ。

さらに、今年度は西濃事務ネットを活用し、資料をいつでもインターネットからダウンロードできるようにした。25 年度からの講演資料・著作権資料をぜひご活用いただきたい。

昨年度 6 月に行ったアンケートから、研推だよりの活用は 3 割を超えていた。情報管理について職員にアドバイスするのは難しいと感じられる方にも、研推だよりでアドバイスができるのではないかと思う。5 年の研究実践の経過を見るために、今年度も秋の研修会前後に 2 回アンケートを行う。

4. 「つくば研修」報告

海津市立城南中学校 小川 茂樹

つくば研修の中から、兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授 大野裕己先生担当の演習「学校組織マネジメントの手法—SWOT 分析」についてと、「学校運営を支える学校事務職員の役割」での指導助言者の国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 藤原文雄先生のお話をする。

SWOTとは、自組織の強み、弱み、機会、脅威のことで、それぞれの頭文字をとってSWOTと言う。SWOT分析では、自分の学校を取り巻く内外の環境を整理分析し、切実な課題、眠っている資源を浮かべ上がらせることを目的としている。そのことを、特色ある学校づくり、課題解決の具体策設定に活かしていく。SWOT分析における重要な考え方としては、学校内外の環境（要因）を客観的に捉えなおすこと、さまざまな要因の状況を統合的に把握すること、眠っている活用可能な資源や機会に気づくこと、無理なく学校組織を変革する着想を養うことである。SWOT分析とその活用の手順としては、①自分の学校の教育効果に影響を与える外部環境の分析を行い、②自分の学校の内部環境の分析を行い、①、②の結果に基づいてSWOT分析を行う。SWOT分析を行うことでもわかるが、それぞれの学校によっていいところ、惜しいところは違う。生徒の実態、教職員の個性、年齢構成も学校ごとに違う。学校の規模、予算、施設関係、地域、歴史、文化、保護者など、それぞれの学校が置かれている状況は違う。「一つ一つの学校が違うなら、一つ一

つの学校が答えを探すしかない」ということである。限られた資源を、いかに生かして、大事にして、子どもの安全を、学びの質を上げていくのかを、知恵を絞っていく時代にきている。自分で考え、自分たちで答えを探す。他に答えはないということが組織マネジメントのエッセンスの一つだ。

組織マネジメントをする上では、事務職員全体が事務処理を正確にしなければ次にはいけない。そして、これからは「学校全体を見てほしい。」ということ。正確な事務処理に加えて学校を見るということが、これから求められていく。学校全体を見渡して、問題を発見し解決する力が必要ということだ。組織マネジメントができる事務職員とは、一言でいうと、「事務トーク」ではなく、「スクールトーク」をする事務職員である。学校を語れる事務職員であるということ。学校全体をみて、語って、うちの学校の強みは何か、課題は何かを語って、スクールトークができるようになってほしいとのことだった。SWOT分析も、「学校をちゃんと見ているか？」ということだ。自分の学校を語れるよう、スクールトークができるよう、よく学校をみるようにしてほしい。

◇総会

会長あいさつ

大野町立大野中学校 小川 秀文

この春に15名の方が退職されたが、他地区から転入された方をお迎えして、113名の会員となった。この2カ月何かとわからないことが多くて大変な毎日ではないかと思う。私も、5年ぶりに異動となったが、新しい学校はわからないことが多く、何かと勝手に違い苦労している。そのような時は一人で抱え込まず、前任者や近隣の学校の事務職員さんを頼ってほしい。西濃事務職員会にも各郡市に1名研修指導員さんがいるし、研修指導委員会で作成した西濃統一事務手引書が、情報担当委員会の管理する西濃事務ネットのホームページに掲載されているので、是非、活用してほしい。



お願いがある。教育事務所の管理調整係へ電話でお尋ねすることは極力控えてほしい。メーリングリストでお知らせしたように、緊急を要するもの以外は原則メールで質問してほしい。

西濃事務職員会は「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を研究テーマに、25年度から5年間の長期研修計画に従い「学校にある様々な危機に対応できる事務職員を目指そう」をサブテーマとして「危機管理」についての研修会を企画している。今年度の秋の研修会では、学校で行われている会計処理や会計報告について、専門家の指導＝会計事務所から講師を依頼したいと思う。また、安八郡にコミュニケーションに関する研修を行ってもらう。

西濃事務研の委員の選出方法だが、昨年12月の役員推薦委員会の折にご意見をいただいた。研究推進委員、研修指導委員を各郡市1名選出しているが、人数の少ない郡市では、他の役員なども選出しなければならず非常に厳しい選出となっているようだ。年々若年層が増え、また、学校間連携や共同実施グループの代表者を新たに選出している郡市にとっては、現在の委員選出が負担となってきている。現在は会則の第6条に於いて規定されている。今年度は、各郡市のご意見や専門委員のご意見を聞き

ながら、今後どのような形にして行くのが良いか考えていきたい。

歴代の役員さんが積み上げ、築いてきた貴重な研修の機会を無駄にしないよう、西濃会員のレベルアップに繋がる会となるよう、皆様にご協力をいただきながら行いたいと思うので、どうぞよろしく願いいたします。

来賓ごあいさつ

西濃小中学校校長会 会長 宮川 保則様

本日は、西濃地区公立小・中学校事務職員会総会が盛大に開催されたこと、お祝い申し上げたい。

日頃、事務の先生方には、お世話になりお礼を申し上げます。

今までたくさんの事務の先生方と一緒に、助けてもらった。どの先生方も子どもの出入りの指導など助けてくださった。また、学校全体を把握し、学校運営に参画して、私にはっきりと説明してくださった。代表してお礼を申し上げます。



パソコン機器も進み、めまぐるしく変わる事務処理に対応よく処理ができる。一方、法的なことや方針が教育委員会の異動などで手続きがコロコロと変わっていくこともあり、対応が大変であると思う。今後も一人職で大変だとは思いますが、事務職員の先生方には情報交流を進めていただき、挨拶に代えさせていただきたい。

議事

議案書どおりに全て承認

慶弔規程の改正

慶弔規程 第3条の括弧書き（産休・育休含む）を理事会で削除することに決定したことを報告。

連絡

◎研修指導委員会 委員長 安八町立登龍中学校 岩田幸代

1～3年目（臨採含む）を対象とした若年層研修を8月7日に行う。対象者には事前にアンケートを送る。

昨年度までは「年度初めの事務手引き」を年度末に配信していたが、今年度から「新規採用者の事務手引き」の1項目として「西濃ジムネット 資料室 研修指導委員会」のページに掲載しているので確認をして欲しい。

◎情報担当委員会 委員長 大垣市立星和中学校 伊藤 卓

今回はメールリストで研修会の資料を配信したが、届いていない学校や西濃事務ネット学校は知らせて欲しい。メールリストへの返信はしないこと。返信をするとすべての学校へ配信することになるので注意！

西濃ジムネットの予定黑板は、各都市の理事で記入して利用して欲しい。

ジム犬がツイッターで呟いているがフォローがない。協力いただきたい。

会員ページのユーザー名と、パスワードの確認、6月1日より変更する。

◎県事研 理事 揖斐川町立春日小学校 竹中昌子

県校長会、県教育委員会との懇談会を予定している。

県教委の行う悉皆研修として今年度より主査昇任者への研修が新設された。

8月20日に夏期研修会、10月2日に事務の日セミナーを計画している。
西濃地区の永年勤続表彰者と特別功労者の名簿を配布した。
管外異動の方に調査を依頼したので協力願いたい。

◎県事研 総務部 揖斐川町立揖斐小学校 子池憲幸
会誌、県事研だより「おんさい」年8回発行、事務日誌、HPによる情報提供、教育表簿の改善等を行う。
共同実施支援サイト「フルスイング」が、県事研HPにリンクしてあるので利用して欲しい。
「おんさい」には、しおり機能を追加。読みやすくしている。
県HPの会員IDおよびパスワードの確認。
フルスイングのIDおよびパスワードの確認。

◎県事研 研究部 神戸町立神戸小学校 志邑みずほ
昨年度で第4次研究構想の5年間が終了、8月の夏期研修会で第5次研究構想を提案する。
県事研評価は、県事研の活動を改善する貴重な資料となる。協力の依頼。

◎県事研 研修部 大垣市立興文小学校 桑原昌夫
教育の最新事情を知ることによって自分の仕事を見つめ直す。実践を聞くことで自分の仕事に活かす等は一人では困難。参加して良かったと思える研修を企画していく。
スキルアップ研修、夏期研修会への参加の依頼。